

同窓会長挨拶 ～今こそ献身犠牲と奉仕の精神を～

この度の東日本大震災で被災された同窓生の皆様に心よりお見舞い申し上げます。また、未曾有の大震災により多くの尊い命が失われたことに対し、東北学院同窓会を代表して深く哀悼の意を表します。東北学院同窓会は母校を応援する最大の組織として活動しておりますが、同窓会活動は地域社会との連携が不可欠でありますので、今こそ東北学院同窓会の力を結集し、この大震災で被害に遭われた地域の皆様を献身犠牲と奉仕の精神で支援していきたいと考えています。復興にはまだまだ時間がかかりますが、地域社会に少しでも貢献したいと思いますので、東北学院同窓生の皆様には特段のご協力をお願いいたします。

さて、1903（明治36）年11月25日に24名の同窓生により結成された東北学院同窓会は、今春新たに3,275名の会員を迎え、今日では163,718人の会員を擁するまでに発展して参りました。現在、東北学院同窓会にはニューヨークを拠点とする北米支部をはじめ日本国内に83支部と主に職域を同じくする115のTG会が組織されており、同窓生は「地の塩」「世の光」として経済界、産業界、医学界、教育界、官界、政界、社会事業方面、そしてそれぞれのご家庭で活躍されています。

私自身、東北学院中学校・高等学校で6年間学び、1960（昭和35）年に東北学院高等学校を卒業した同窓生であり、東北学院の同窓生であることを誇りに思っています。高校卒業後は、大学と大学院、そしてその後の教職期間を含めて約40年間を国立大学で過ごしましたが、2004（平成16）年4月に東北学院大学長として母校・東北学院に迎えられました。また、2007（平成19）年4月からは東北学院長をも拝命し、現在に至っています。さらに、2008年12月の会則改正を受けて東北学院同窓会の役員全てを同窓生の中から選任することになりましたが、私は新会則のもとに会長に選任され東北学院同窓会の会長も拝命しています。ご承知のように、東北学院同窓会は東北学院が設置する学校（中学校、高等学校、榴ヶ岡高等学校、大学、大学院）を卒業した人たちで組織されていますが、16万余人が繋ぐTGコミュニケーションは東北学院同窓会の宝であり、また大きな力にもなると考えています。

冒頭に述べましたように、3月11日（金）に発生した「人知を超えた災害」は、甚大な被害をもたらしました。東北学院同窓会では5月末まで同窓会活動の自粛をお願いし、その間、各支部とTG会をはじめ同窓生の安否確認と被災状況の把握に努めました。特に宮城県と岩手県において多くの同窓生の死亡が確認され、併せて家屋流失や建物の全壊・半壊の被害も多いことが判明し、私自身大変心を痛めています。東北学院同窓会は今年で設立108年目を迎えます。この伝統を誇る東北学院同窓会が地域社会とともに歩み、母校を応援する最大の組織として更に発展するために、皆様方からお力添えをいただきながら微力を尽くして参る所存です。変わらぬご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、同窓生の皆様お一人おひとりに神様の豊かな祝福がありますようお祈り申し上げます。

平成23年6月